

## 第22回 レギュラトリーサイエンス学会 理事会 議事録

令和5年6月5日11時00分、WEBシステムを用いて、理事会を開催した。

### 出席者

理事：14名

新井洋由、石井明子、泉祐子、柏谷裕司、川北晃司、久芳明、近藤昌夫、富田泰輔、成川衛、橋田充、柳澤学、山本晴子、渡邊伸一、渡邊裕司

監事：2名

笠貫宏、山本圭一

代表理事橋田充が議長として、開会を宣言し、WEBシステムによって出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる仕組みになっていることを出席の理事、監事全員で確認したうえで、次のとおり定足数に達する理事の出席があったので、本理事会は適法に成立した旨を告げた。

理事総数 20名

出席理事 14名

### 一 決議事項

#### 第1号議案 「日本薬系学会連合（仮称）」への対応の件

本議案につき、事務局から、本年1月の理事会における議論の結果に基づき、代表理事及び事務局担当が参加した本連合設立委員会での議論を踏まえ、あらためて、「日本薬系学会連合（仮称）」の検討経緯、会則の案、想定される会費、今後の予定等につき報告、説明した。

その中で、本年1月の理事会で懸念が示された「薬学」に特化している点については、第1回設立委員会において代表理事から、『定款（目的）の「薬と健康に関する科学及び技術を発展させることにより」は適切な表現と考えるが、その次の薬学の水準を向上し…の「薬学」という箇所については「薬系」という相対的に広い括りを基盤とする組織として検討の余地がある』のではないかと指摘されたところであるが、『医学会連合は医学、看護学会連合は看護学、という言葉が必ず出てきて、その上で、学問領域の分野として薬系の本連合も薬学』ということで案が準備会等で固まっているとの回答があった。また、この点については、5月1日の第2回委員会でも変更しない旨説明があり、7月3日の設立総会へ提出する会則案でも変更はないことが報告された。議長から、「日本薬系学会連合（仮称）」に参加する選択肢の他、現時点では参加を見送る考え方もあるとの見解が述べられた。

これに加え、欠席の合田理事から提出された連合に参加すべきとする意見書が説明された。出席の理事からは、1月の理事会でも意見があったように、本学会は特定の分野に特化することなく、諸科学に横串を刺すようなものであることから、本連合への参加については慎重に対応すべきとの意見があった。

議長からほかに意見はないか意見を求めたが、特段の意見がなかったため、議長から、現時点での「日本薬系学会連合（仮称）」への参加は見送り、今後の状況の推移を注視しつつ、適宜必要な検討を行うこととしたい旨の提案があり、出席の理事・監事、満場一致をもってこれを承認可決した。

## 第2号議案 日本学術会議協力学術研究団体の指定への対応の件

本議案につき、事務局から、前回の理事会で、本指定を受けるよう準備をすすめることが適当との意見があったことから、指定の申請に向けて、準備を進めてきたこと、申請にあたっては、設立趣意書、定款、会員名簿、役員名簿等の所定の資料提出が必要なこと、申請が受け付けられてから概ね3～4か月後に審査結果が通知されること等が説明された。

議長から、出席の理事・監事に意見を求めたところ、特段の意見はなく、学術会議については本学会としても積極的に関与すべきであり、申請を行うことにしたい旨を述べ、出席の理事・監事、満場一致をもってこれを承認可決した。

## その他

### ① 事務局担当の追加

事務局から、事務局担当として、下川昌文先生（公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学）、富永俊義先生（慶応義塾大学病院）の2名を追加したいことが説明され、了解された。

### ② 次回の理事会の日程

次回の理事会については、日程調整の結果、7月10日（月）15時からWEB開催の予定であることが報告された。

以上をもって本日の議事が終了したので、議長は11時35分閉会を宣言した。

以上の決議を明確にするため、本議事録を作成し、理事長及び監事が記名押印する。

令和5年6月15日

一般社団法人レギュラトリーサイエンス学会

代表理事 橋田 充 印

監 事 笠貫 宏 印

監 事 山本圭一 印